

一般社団法人 日本行動分析学会

第42回年次大会プログラム



2024年 9月13日（金）-15日（日）

駒澤大学駒沢キャンパス

【アクセスマップ】



《年次大会会場》

駒澤大学駒澤キャンパス 種月館（3号館）

東急田園都市線 駒澤大学駅より徒歩 10分

桜新町駅より徒歩 15分

<https://www.komazawa-u.ac.jp/access/>

《懇親会会場》

駒澤大学深沢キャンパス 洋館大ホール

駒澤キャンパス正門より徒歩 5分

※各キャンパスには駐車場がございません。公共交通機関をご利用のうえ、ご来場をお願い致します。

【キャンパスマップ】

《 駒沢キャンパス 》



※駒沢キャンパスの出入りは正門のみとなります。

《 深沢キャンパス 》

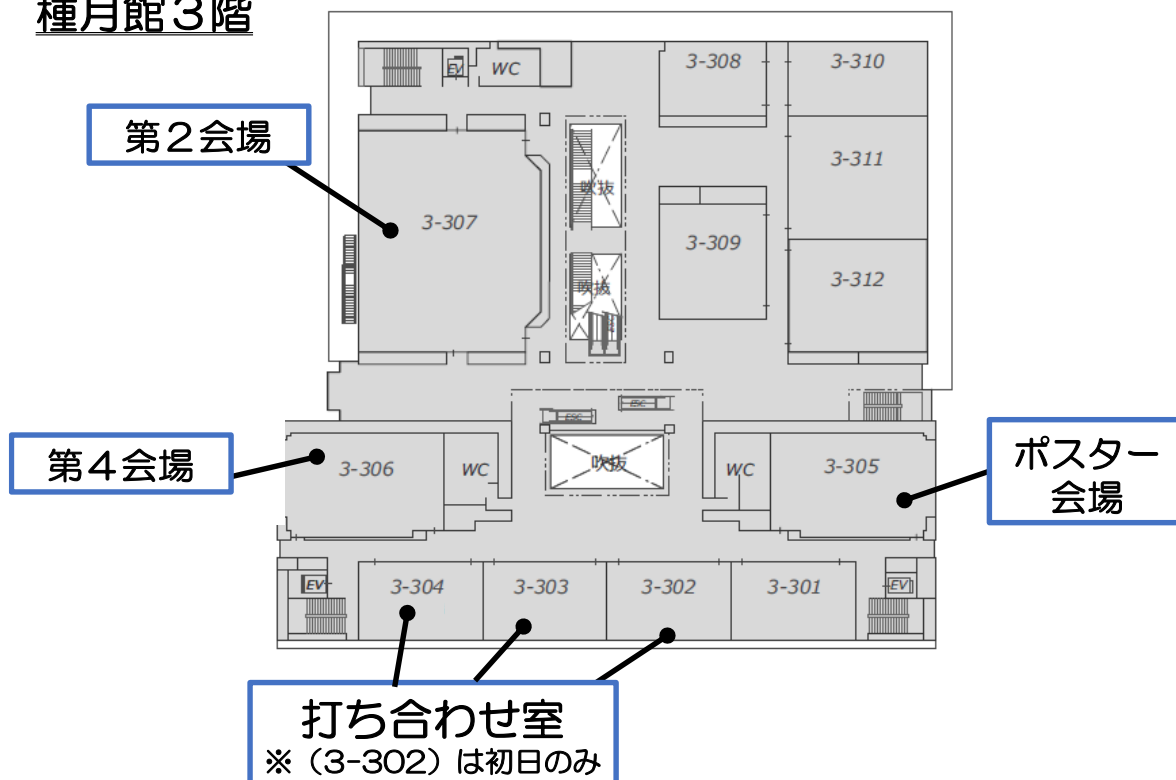


【大会会場フロアマップ】

種月館2階



種月館3階



ごあいさつ

2024年の第42回年次大会を駒澤大学駒沢キャンパスにて開催させていただくことになりました。駒澤大学での開催は1992年の第10回大会以来32年ぶりの開催となり、身の引き締まる思いで準備を進めております。会期は9月13日から15日の3日間で、大会プログラムとして一般発表、各種シンポジウム、特別講演を予定しております。

年次大会会場として使用する130周年記念棟はコンパクトではありますが、歴史ある教えの伝統、禅の心を継承し、未来へ進化させることを意図して建てられました。この記念棟は種月館と呼ばれ、禅語の「耕雲種月（こううんしゅげつ）」がその名の由来となっています。この“耕雲”とは、雲の下で耕すこと、“種月”とは月の照らす中で植えることを指し、あわせて労苦をいとわず耕作して種をまく、つまり、修行に精進することを指します。まさに学問について議論、学术交流をするうえでふさわしい建物といえるでしょう。また、懇親会は近代数寄屋建築の創始者である吉田五十八氏の設計監修により建設された旧三越シルバーハウスの洋館にて行う予定です。この建物はドラマの撮影でもたびたび使用されており、その外観をご覧になった方もいらっしゃるのではないかと思います。ぜひ近代数寄屋建築の粋である会場での懇親会もご堪能いただければと思います。

現在、本学はキャンパス再開発工事中にあります。その工事期間中での開催となるため、会期中にご不便、ご面倒をおかけすることが多々あるかと思っております。そのような中での開催ではありますが、参加者のみなさまが活発な議論、交流を行うことができる快適な環境をできる限り準備させていただくつもりです。それではみなさまのご来場を心よりお待ちしております。

一般社団法人日本行動分析学会第42回年次大会準備委員会
委員長 久保 尚也

○大会参加者へのご案内

1. 会場

大会会場は、駒澤大学駒沢キャンパス(世田谷区駒沢 1-23-1)です。会場へのアクセス方法については、この冊子または大会ホームページ(<https://j-aba.jp/meeting/2024/>)をご覧ください。

2. 受付

受付は、9月13日(金)は9:15から、14日(土)および15日(日)は9:00から、種月館(3号館)2階ウィステリアで行います。予約参加をされた方は、お名前とご所属を印刷した参加章および領収書をお渡しいたします。当日参加の方には、大会参加費のお支払いと引き換えに参加章をお渡しいたしますので、お名前とご所属をご記入ください。参加章は、大会会場内では、はっきりと見えるところにつけてください

3. 懇親会

14日(土)の18:00から深沢キャンパス洋館大ホールにて懇親会が開催されます。懇親会の当日参加も大会受付で承ります。なお、定員に達し次第終了となりますのでお早めにお手続きください。

4. クローク

お荷物は、種月館(3号館)2階3-211教場にてお預かります。ご利用時間は、9月13日(金)9:15~16:30、9月14日(土)9:00~17:45、9月15日(日)9:00~17:15です。なお、日付を越えてのお預かりはできませんので、必ず当日中にお引き取りください。

5. 休憩スペース

大会2日目(9/14)と3日目(9/15)の2日間、種月館(3号館)2階の3-212教場に休憩スペースを設けます。この教場は論文交換スペースも兼ねております。

6. 書籍の展示・販売

書籍の展示と販売は種月館(3号館)2階ウィステリアにて行います。

7. お呼び出し・携帯電話のご使用

原則として会場内でのお呼び出しはいたしません。また、会場内ではスマートフォン・携帯電話などの電源をお切りいただくかマナーモードに設定してください。

8. 会場内の無線LANについて

会場内では、eduroam回線がご利用いただけます。

9. お食事について

コンビニエンスストアが種月館1階にあります。コンビニエンスストアは13日(金)の8:00から14:00のみの営業です。会期中のお食事については大学近隣の飲食店をご利用ください。

10. コピー・ATM

ATMは1号館2階とコンビニエンスストア(種月館1階)にあります。1号館のATMは13日(金)および14日(土)のみの営業となります。コピー機はコンビニエンスストアのものをご利用ください。

11. 駐車場

学内に駐車スペースはありません。公共交通機関をご利用ください。車いすのご利用など、必要な場合には準備委員会まで予めお申し出ください。

12. 連絡先

大会本部(種月館2階3-211教場)または jaba-meeting@j-aba.jp にご連絡ください。

13. その他

喫煙は指定の喫煙所(7号館脇)にてお願い致します。またキャンパス内での飲酒はご遠慮いただきますようお願い致します。ご不明な点があれば、スタッフの名札を着用した係員までお問い合わせください。

○シンポジウム関係者へのご案内

1. 打ち合わせ室

種月館 3階 3-302 (9/13 のみ)、3-303、3-304 教場にシンポジウム打ち合わせ室を設けております。

2. パソコン、スクリーンなど

シンポジウム会場に Windows パソコンを準備します。また、ブルーレイプレイヤー、DVD プレイヤー、プロジェクターをご利用いただけます。いずれも HDMI および VGA 入力に対応しております。その他の機材については準備委員会にお問い合わせください。打ち合わせ用に、貸出用の Windows パソコンを受付にてご準備いたします。打ち合わせ室でのご利用を希望される場合は大会本部のスタッフにお声かけください。

3. 配布資料

配布資料がある場合は、企画者ご自身でご準備ください。

○ポスター発表者へのご案内

1. 会場・時間

9月14日(土)は14:00~16:00の時間帯に、15日(日)は13:00~15:00の時間帯に、種月館3階3-305教場にてポスターセッションを行います。発表者の在籍責任時間は、発表番号が奇数の方は前半の1時間、偶数の方は後半の1時間となります。セッション終了後は各自でポスターの撤去をお願いします。残っているポスターについては、準備委員会で処分いたします。

2. 受付

発表会場デスクにてポスター番号を確認の上、所定のパネルにポスターを貼ってください。

3. 掲示パネル

パネルのサイズは縦180cm、横90cmです。

4. 発表要件

ポスターセッション時間中にポスターを掲示し、所定の在籍時間中に在籍し、参加者と質疑応答することにより、正式発表となります。

5. 筆頭発表者欠席の場合の扱い

筆頭発表者が欠席した場合には、連名発表者の代行を認めます。発表論文集に記載されている筆頭発表者に欠席や交代などの変更があれば、会期前は準備委員会に、会期中は大会本部にご連絡ください。

6. その他

配布資料がある場合は、各自でご準備ください。

○論文交換テーブル

日本行動分析学会では、会員の研究交流を推進するために既発表の論文を著者が展示し、希望者に配布するスペース(論文交換テーブル)を年次大会で設けています。大会2日目と3日目(9月14日・15日)に、休憩室(種月館2階3-212教場)に用意します。専門誌掲載、紀要論文など発表媒体は問いません。紹介したい自著論文の抜刷(またはコピー)をご持参ください。

原則として、見本の抜刷を1編につき1部準備し、所定の場所で参加者が自由に閲覧できるようにします。抜刷の希望者が所定の名簿に名前と住所またはメールアドレスを記入し、著者が後日送付する方法で運営します。多くの部数をご持参頂ける場合にはこの限りとせず、見本の1部以外は自由にお持ち帰りいただけます。

○日本行動分析学会の会員の方へのご案内

1. 理事会

理事会は大会1日目(9月13日)の16:30から、種月館2階、3-203教場にて行います。

2. 会員集会

会員集会を大会2日目(9月14日)の12:00から、種月館2階、3-207教場にて行います。

3. 学会賞授与式・受賞講演

学会賞授与式・受賞講演を大会2日目(9月14日)の13:00から種月館2階、3-207教場にて行います。

4. 編集委員会

『行動分析学研究』の編集委員会を大会3日目(9月15日)の11:45から種月館2階、3-203教場にて行います。

大会プログラム

特別講演

9月14日(土) 16:00~17:30 (種月館2階3-207)

デザインと消費者行動

Design and Consumer Behavior

講演 井上 勝雄 (元広島国際大学)
Katsuo INOUE (Former Hiroshima International University)

司会 久保 尚也 (駒澤大学)
Naoya KUBO (Komazawa University)

講演要旨

今日、デザインの活動範囲は広くなり、デザインが人々の行動に影響するのは、私の専門のプロダクトデザインから考えると主に商品の選択行動の関係と考えます。本講演の聴講者はデザインの専門外の方が殆どでしょうから、本題の理解を深ために、前段にデザインの定義やその発展の歴史と思想などを簡潔にお話したいと思います。

デザインによる消費者の商品の選択行動との関係について、企業でのデザイン開発の実務経験も踏まえながら、独自のデザインマーケティングの視点から考えます。人々の価値観も時代とともに大きく変化し、特に消費者の関心がモノからコトへ移ると、従来の造形的なデザインからサービスなどのデザインが多くなってきています。そのため、デザイナーも消費者の心の中を理解することが必要になり、心理学的な思考が求められています。さらに、個人的なメリットよりも社会課題の解決する商品やサービスに消費者の関心が高くなってきています。これらは商品選択基準が変化したことを意味します。

一方、時代が情報化社会へと移行すると、デジタルデバイドの問題から誰にでも使いやすいことが大きな商品選択基準になり、そのためインタフェースデザインも重要になってきています。スマートホンに影響を与えた携帯電話(i-mode)のインタフェースデザイン開発を担当し、その経験を踏まえて、ユーザーの操作行動を認知心理学的なモデルとその各手法についてお話しします。

コンピュータサイエンスの発展に伴い、近年、デザインを含めて人間の感性を工学的にアプローチする感性工学という学問が登場しました。その提唱者の長町三生教授から推挙されて他の教授も含めて一緒に大学で研究する機会を得ました。その研究活動を通じて導かれたラフ集合を用いた感性デザインという認知心理学をベースにしたデザイン設計論についてもお話しします。

略歴など

1978年千葉大学大学院工学研究科修了、同年三菱電機(株)に入社。2002年同社デザイン研究所・部長を経て、広島国際大学教授、2018年定年退職後、(株)ホロンクリエイト研究顧問/(公財)中国地域創造研究センター研究員、現在に至る。博士(工学)。日本デザイン学会(名誉会員)、日本感性工学会(理事)。人間工学専門家、専門社会調査士。1996年日本デザイン学会研究奨励賞、2004年・2005年・2020年日本感性工学会出版賞、2005年日本知能情報ファジイ学会著述賞、応用人間工学国際会議(2021)最優秀論文賞。主な著書に『ラフ集合と感性』『デザインと感性』『都市・建築の感性デザイン工学』『インタフェースデザインの教科書』『デザインマーケティングの教科書』『感性デザイン』など多数。

行動分析学は労力とどう向き合うべきか

How should behavior analysis deal with effort?

企画	日本行動分析学会第42回年次大会準備委員会
司会	久保 尚也 (駒澤大学) Naoya KUBO (Komazawa University)
話題提供	古野 公紀 (立命館大学) Masanori KONO (Ritsumeikan University) 田島 裕之 (尚絅学院大学) Hiroyuki TAJIMA (Shokei Gakuin University) 腰冢 由子 (駒澤大学) Yuko KOSHITSUKA (Komazawa University) 塚本 匡 (専修大学) Masashi TSUKAMOTO (Senshu University)
指定討論	平岡 恭一 (弘前医療福祉大学短期大学部) Kyoichi HIRAOKA (Hirosaki University of Health and Welfare Junior College)

なぜ、いま「橋渡し研究」なのか：行動分析学の現状

Why is translational research so important in behavior analysis?

- | | |
|------|--|
| 企画 | 武藤 崇 (同志社大学)
Takashi MUTO (Doshisha University) |
| 司会 | 武藤 崇 (同志社大学)
Takashi MUTO (Doshisha University) |
| 話題提供 | 丹治 敬之 (筑波大学)
Takayuki TANJI (University of Tsukuba)
井垣 竹晴 (流通経済大学)
Takeharu IGAKI (Ryutsu Keizai University)
村井 佳比子 (神戸学院大学)
Keiko MURAI (Kobe Gakuin University) |
| 指定討論 | 石塚 祐香 (筑波大学)
Yuka ISHIZUKA (University of Tsukuba) |

公募企画シンポジウム 1

9月15日(日) 15:00~17:00 (種月館3階3-207)

応用数量行動分析とは何か? : 基礎・応用・実践の接点を探る An Introduction to Applied Quantitative Analysis of Behavior

- 企画** 山岸 直基 (流通経済大学)
Naoki YAMAGISHI (Ryutsu Keizai University)
- 司会** 山岸 直基 (流通経済大学)
Naoki YAMAGISHI (Ryutsu Keizai University)
- 話題提供** 古野 公紀 (立命館大学)
Masanori KONO (Ritsumeikan University)
空間 美智子 (京都ノートルダム女子大学)
Michiko SORAMA (Kyoto Notre Dame University)
中村 敏 (相愛大学)
Satoshi NAKAMURA (Soai University)
- 指定討論** 井上 雅彦 (鳥取大学)
Masahiko INOUE (Tottori University)

システム行動生物学と生態学からみた学習：動物界から菌界まで

Learning in Systems Ethology and Ecology: From the Animal Kingdom to the Fungal Kingdom

- 企画** 吉岡 昌子 (愛知大学)
Masako YOSHIOKA (Aichi University)
藤 健一 (立命館大学)
Ken'ichi FUJI (Ritsumeikan University)
- 司会** 吉岡 昌子 (愛知大学)
Masako YOSHIOKA (Aichi University)
藤 健一 (立命館大学)
Ken'ichi FUJI (Ritsumeikan University)
- 話題提供**
(兼指定討論) 深澤 遊 (東北大学)
Yu FUKASAWA (Tohoku University)
新村 毅 (東京農工大学)
Tsuyoshi SHIMMURA (Tokyo University of Agriculture and Technology)
中島 定彦 (関西学院大学)
Sadahiko NAKAJIMA (Kwansei Gakuin University)
長谷川 福子 (筑波大学)
Fukuko HASEGAWA (University of Tsukuba)

行動分析学を社会に広めるために(2) : 対象&ターゲット行動で分類した“包括三層モデル”で方略を整理する

Behavior Analysis and Society (2): How to promote our strategies?

- 企画** 三田地 真実 (法政大学)
Mami MITACHI (Hosei University)
松山 康成 (東京学芸大学)
Yasunari MATSUYAMA (Tokyo Gakugei University)
- 司会** 三田地 真実 (法政大学)
Mami MITACHI (Hosei University)
松山 康成 (東京学芸大学)
Yasunari MATSUYAMA (Tokyo Gakugei University)
- 話題提供** 河村 優詞 (東京都八王子市立宇津木小学校)
Yuji KAWAMURA (Hachioji City, Ustukidai Elementary School)
門脇 陽一 (兵庫県立こやの里特別支援学校)
Yoichi KADOWAKI (Koyano-sato School for Special Needs Education)
田熊 立 (千葉県発達障害者支援センター)
Ritsu TAKUMA (Chiba Pref. Support Center for persons with Developmental Disorders)
増谷 聡子 (ドリーム・ブライト)
Satoko MASUTANI (Dream Bright)
- 指定討論** 藤巻 峻 (常磐大学)
Shun FUJIMAKI (Tokiwa University)
佐藤 智彦 (東京慈恵会医科大学)
Tomohiko SATO (Jikei University School of Medicine)

自閉スペクトラム症の早期介入のための実践倫理：2030年代を見据えて

Practical ethics for early intervention for autism spectrum disorders - toward the next decade

- 企画** 熊 仁美 (NPO法人ADDS)
Hitomi KUMA (NPO ADDS)
- 司会** 竹内 弓乃 (NPO法人ADDS)
Yuno TAKEUCHI (NPO ADDS)
- 話題提供** 熊 仁美 (NPO法人ADDS)
Hitomi KUMA (NPO ADDS)
竹内 弓乃 (NPO法人ADDS)
Yuno TAKEUCHI (NPO ADDS)
藤坂 龍司 (NPO法人つみきの会)
Ryuji FUJISAKA (NPO Tsumiki no Kai)
竹島 浩司 (株式会社エルチェ)
Koji TAKESHIMA (Elche Co., Ltd.)
- 指定討論** 井上 雅彦 (鳥取大学)
Masahiko INOUE (Tottori University)
杉山 尚子 (順天堂大学医学部)
Naoko SUGIYAMA (Juntendo University)

Enable360 システムを用いた SE&RF の訓練の実践と社会実装に向けた取り組み

Efforts to provide practical SE&RF training using the Enable360 system and to implement them in society

- 企画** 勿田 文記 (株式会社スタートライン)
Fumiki HANEDA (Startline CO., LTD.)
- 司会** 勿田 文記 (株式会社スタートライン)
Fumiki HANEDA (Startline CO., LTD.)
- 話題提供** 香川 紘子 (株式会社スタートライン)
Hiroko KAGAWA (Startline CO., LTD.)
岩村 賢 (株式会社スタートライン)
Ken IWAMURA (Startline CO., LTD.)
小幡 知史 (樹の子クラブ)
Satoshi OBATA (KINOKO Club)
高柳 優子 (ABA療育支援室egg!)
Yuko TAKAYANAGI (ABA Behavioral Support - egg!)
稲田 尚子 (大正大学)
Naoko INADA (Taisho University)
- 指定討論** 竹内 康二 (明星大学)
Koji TAKEUCHI (Meisei University)

行動分析学の外にある行動分析学

Behavior Analysis Outside Behavior Analysis

- 企画** 黒田 敏数 (国際電気通信基礎技術研究所)
Toshikazu KURODA (ATR)
- 司会** 黒田 敏数 (国際電気通信基礎技術研究所)
Toshikazu KURODA (ATR)
- 話題提供** 黒田 敏数 (国際電気通信基礎技術研究所)
Toshikazu KURODA (ATR)
浅井 智久 (国際電気通信基礎技術研究所)
Tomohisa ASAI (ATR)
杉本 翔哉 (玉川大学)
Shoya SUGIMOTO (Tamagawa University)
- 指定討論** 丹野 貴行 (明星大学)
Takayuki TANNO (Meisei University)

応用行動分析をコミュニティにおける家族・支援者対象の 発達支援にどう活かすか？

How can applied behavior analysis be used in developmental support for family and supporters in the community?

- 企画** 米山 直樹 (関西学院大学)
Naoki YONEYAMA (Kwansei Gakuin University)
廣瀬 真理子 (関西学院大学)
Mariko HIROSE (Kwansei Gakuin University)
- 司会** 米山 直樹 (関西学院大学)
Naoki YONEYAMA (Kwansei Gakuin University)
- 話題提供** 加藤 美朗 (関西福祉科学大学)
Yoshiro KATO (Kansai University of Welfare Sciences)
岡 綾子 (鳴門教育大学)
Ayako OKA (Naruto University of Education)
廣瀬 真理子 (関西学院大学)
Mariko HIROSE (Kwansei Gakuin University)
- 指定討論** 井澤 信三 (兵庫教育大学)
Shinzo ISAWA (Hyogo University of Teacher Education)

ヒューマンサービス科学としての応用行動分析学の拡張と発展：リハビリテーション，介護，看護との連携研究の実際
Innovation of Applied Behavior Analysis for Rehabilitation, Care, and Nursing

- 企画** 山本 淳一 (東京都立大学)
Junichi YAMAMOTO (Tokyo Metropolitan University)
- 司会** 山本 淳一 (東京都立大学)
Junichi YAMAMOTO (Tokyo Metropolitan University)
- 話題提供** 在原 菜々花 (東京家政大学)
Nanaka ARIHARA (Tokyo Kasei University)
石橋 麻希 (聖マリアンナ医科大学)
Maki ISHIBASHI (St. Mariana University School of Medicine)
鈴木 輝美 (東京医療学院大学)
Terumi SUZUKI (University of Tokyo Health Sciences)
櫻井 好美 (湘南医療大学)
Yoshimi SAKURAI (Shonan University of Medical Sciences)

今考える, 日本における行動分析学のミライ

Current status and future directions of behavior analysis in Japan

- 企画 松田 壮一郎 (筑波大学)
Soichiro MATSUDA (University of Tsukuba)
- 司会 松田 壮一郎 (筑波大学)
Soichiro MATSUDA (University of Tsukuba)
- 話題提供 松田 壮一郎 (筑波大学)
Soichiro MATSUDA (University of Tsukuba)
福田 実奈 (北海道医療大学)
Mina FUKUDA (Health Sciences University of Hokkaido)
藤巻 峻 (常磐大学)
Shun FUJIMAKI (Tokiwa University)
島宗 理 (法政大学)
Satoru SHIMAMUNE (Hosei University)
- 指定討論 山岸 直基 (流通経済大学)
Naoki YAMAGISHI (Ryutsu Keizai University)

自主企画シンポジウム 8

9月13日(金) 14:15~16:15 (種月館 2階 3-207)

第四回若手研究者口頭発表セッション

4th oral presentation session by young behavior analysts

- 企画 日本行動分析学会若手研究者優秀発表賞選考委員会
日本行動分析学会若手会
- 発表者① 嘉手苺 瑠輝 (鳥取大学)
- 発表者② 韓 天一 (慶應義塾大学)
- 発表者③ 熊崎 菜々子 (筑波大学)
- 発表者④ 東 美穂 (慶應義塾大学)
- 発表者⑤ 石塚 雅貴 (明星大学)
- 発表者⑥ 山口 雅也 (筑波大学)
- 発表者⑦ 近藤 瑞季 (行動コーチングアカデミー)

ポスター発表 1

9月14日(土) 14:00~16:00 (種月館3階3-305)

在席責任時間 奇数:前半1時間, 偶数:後半1時間

- | | | |
|-------|---|--|
| P1-01 | 日本行動分析学会の会員数動態の分析:1983年~2011年 | ○ 藤 健一 |
| P1-02 | 普段からアルコールを摂取する環境でのノンアルコール飲料の摂取が反応抑制と創造性に与える影響 | ○ 福田 実奈
青山 謙二郎 |
| P1-03 | EEG マイクロステートの条件性弁別 | ○ 黒田 敏数 |
| P1-04 | 累進比率スケジュールを用いて測定した高労力大強化子選好度に関する研究 | ○ 田島 裕之 |
| P1-05 | FI スケジュールで訓練後に消去した反応の再出現:反応非依存強化子呈示による復位効果 | ○ 平田 さくら
奥田 研志
中島 定彦 |
| P1-06 | 受動的回避課題における消去試行の繰り返しに伴うラットの文脈恐怖反応の増加 | ○ 加藤 新
立川 淳也
畑 敏道
青山 謙二郎 |
| P1-07 | パーセントイルスケジュールにおける強化基準の明確さが長い反応間時間の形成に及ぼす影響:パーセントイルスケジュールにおける順位の確率的選択による操作 | ○ 折原 友尊
丹野 貴行 |
| P1-08 | 流暢性と正確性の訓練が大学生の英単語の学習に与える効果 | ○ 東 陽歩 |
| P1-09 | 大学生に対する刺激ペアリング手続きを用いた相対音感能力向上の検討 | ○ 橋本 優里
眞見 隼史
米山 直樹 |
| P1-10 | イントラバーバルネーミング訓練が等価クラス成立に及ぼす影響の検討 | ○ HU SIMENG
松田 壮一郎 |
| P1-11 | タスク・プロジェクト管理ツールを用いた行動マネジメント | ○ 平野 貴嗣
山田 真輔
片岡 茉理
島宗 理 |
| P1-12 | リズム脳刺激によるオペラント行動の改善効果:神経行動分析学と行動リハビリテーションの融合研究 | ○ 在原 菜々花
鈴木 誠
磯 直樹
松本 卓也
山本 淳一 |
| P1-13 | 家族型ロボット LOVOT の医療現場への導入による廃用症候群のある患者の行動変化 | ○ 石橋 麻希
小林 泰之
佐々木 信幸
大森 みかよ |

		山本 淳一
		大森 圭貢
P1-14	一自治体における不登校支援対策スーパーヴィジョンでの行動論的アプローチの変遷	○ 矢野 善教
P1-15	行動分析学をテーマとした特別支援教育分野の教員サークルの研修効果：知識獲得および対処法選択の正確性の向上	○ 河村 優詞 村浦 新之助 杉本 任士 松山 康成 前川 圭一郎 宮崎 静徳 I-Wen-Chen
P1-16	大学クラブにおける PBIS の実践報告	○ 長島 章 石黒 康夫
P1-17	刺激ペアリング手続きを効果的に行うための条件に関する事例的検討：平仮名読み習得への介入効果が十分に示されなかった2事例より	○ 稲垣 佑 内田 佳那 丹治 敬之
P1-18	小学校通常学級 1 年生のクラスワイド刺激ペアリング手続きによるカタカナの書字指導	○ 平野 佳子 井澤 信三
P1-19	ペアレントトレーニングにおける目標行動への介入	○ 立本 惇子 斉藤 正己 永富 大舗
P1-20	要支援高齢者の摂食嚥下機能の維持向上を目指すセルフマネジメントプログラムの開発	○ 西岡 裕子 鎌倉 やよい 天木 伸子
P1-21	高齢者施設における尿失禁のみられる認知症高齢者一事例に対する行動コンサルテーション	○ 石川 愛 武田 朱公 山中 克夫
P1-22	定型発達成人を対象とした行動スキル訓練の評価：システムティックレビュー	○ 櫻井 優大 安 灿翎 柞木 太地 松田 壮一郎
P1-23	知的能力障害を伴う自閉スペクトラム症のある児童における写真撮影時のポージングスキルの行動変動性に関する研究	○ 山本 多佳実 山本 真也 井澤 信三
P1-24	強度行動障害の状態にある最重度知的障害と自閉スペクトラム症のある生徒の食行動に対する介入	○ 村浦 新之助 米澤 巧美
P1-25	ASD 児に対する文構成に基づく作文指導	○ 若林 風佳 高浜 浩二
P1-26	通常学級に在籍する自閉スペクトラム症児に対するシェイピング手続きを用いた指導の効果	○ 永富 大舗

- P1-27 自閉スペクトラム症児の交互交代遊びに対する刺激性制御に基づく
トレーニングの検討 ○ 二階堂 梓
外川 輝
高浜 浩二
- P1-28 行動連鎖中の強化率がASD児の逸脱行動に与える効果 ○ 松葉 琴音
手塚 彩花
高浜 浩二

ポスター発表2

9月15日(日) 13:00~15:00 (種月館3階3-305)

在席責任時間 奇数:前半1時間, 偶数:後半1時間

- | | | |
|-------|---|--|
| P2-01 | 作業妨害頻度減少による負の強化におけるヒトの回避反応(4):ゲーム仕様の変更と随伴性単純化の試み | ○ Poon Wai Ho Stephen
Xin ZHOU
望月 要 |
| P2-02 | 作業妨害頻度減少による負の強化におけるヒトの回避反応(5):ルールを教示した場合と、そのルールが無効になった場合 | ○ Xin ZHOU
Poon Wai Ho Stephen
望月 要 |
| P2-03 | 呼吸の感覚を条件刺激として用いた恐怖条件づけ | ○ 加藤 珠夏
塚本 匡
澤 幸祐 |
| P2-04 | 報酬の損失を考慮したセルフ・コントロールパラダイムにおける得失量の明示化の効果 | ○ 片山 綾 |
| P2-05 | ADHD モデル EL マウスの僅差の遅延条件を含む遅延割引の双曲線関数による分析と atomoxetine 投与効果 | ○ 麦島 剛
今尾 佳乃子
端口 弓月
名蔵 央夏
水流 百香
吉田 萌
竹明 玲菜
永井 友幸
森寺 亜伊子
久保 浩明 |
| P2-06 | ADHD モデル動物 EL マウスを用いた僅差の選択を含む遅延割引課題における遅延および報酬量の感受性と atomoxetine 投与効果 | ○ 端口 弓月
今尾 佳乃子
名蔵 央夏
水流 百香
吉田 萌
竹明 玲菜
永井 友幸
森寺 亜伊子
久保 浩明
麦島 剛 |
| P2-07 | 遅延位置合わせ課題における中間反応の定量評価 | ○ 後藤 和宏
結城 笙子 |
| P2-08 | 随伴性から辿る八正道:涅槃に至る実践徳目の行動分析的検討 | ○ 渡辺 修宏
小幡 知史 |

P2-09	皮肉発言の生起要因に関する行動分析学による理論的検討	○ 山田 友哉 井澤 信三
P2-10	タイムアウトは試合の流れを変えられるか？ : 卓球セミプロリーグの試合データを対象とした強化率の解析	○ 島宗 理
P2-11	特別支援学校における知的障害生徒の行動問題への支援：パフォーマンス・フィードバックによる支援会議の効果と役割	○ 宮田 賢吾 村中 智彦
P2-12	公立中学校における SW-PBIS の実践報告	○ 濱田 達矢 木實 広 石黒 康夫 長島 章
P2-13	教員のタイムカード打刻忘れ防止を目的とした WEB 掲示板による教示の効果	○ 榎原 岳
P2-14	媒介変数を利用した援助要請行動の支援に関する予備実験：家族に家事を依頼する行動	○ 田原 太郎
P2-15	小・中学生を対象とした目標設定とグラフフィードバックが英語多読総語数の増加に及ぼす影響	○ 山本 優太 竹中 楓月 米山 直樹
P2-16	言語症のある幼児の音声発話に対する随伴模倣の効果：ケーススタディ	○ 南 遥花 松田 壮一郎
P2-17	学校での発話頻度が増加した場面緘黙児の一例：学校との連携の在り方について	○ 米澤 舞菜 宮裕 昭 栞原 康通
P2-18	ASD 児に対する関係フレーム理論に基づく社会的スキル訓練	○ 野地 柊汰 高浜 浩二
P2-19	自閉スペクトラム症児・ダウン症児におけるトークンの自己・他者貼付並びにバックアップ強化子の有無の効果	○ 西口 知宏 米山 直樹
P2-20	知的発達症を伴う ASD 児に対する刺激ペアリング手続きを用いた漢字熟語の読み学習場面における音声呈示のタイミングが与える影響	○ 池川 梨花 米山 直樹
P2-21	PECS を用いた命名訓練が ASD 児の二語文音声言語要求の獲得に与える効果	○ 渥美 瑠奈 手塚 彩花 高浜 浩二
P2-22	自閉スペクトラム症児における場面カードを用いたイントラバーバル指導	○ 小幡 知史 渡辺 修宏
P2-23	ASD 児に対する水泳指導：保護者に対するアドバイスを通して	○ 竹中 正彦
P2-24	強迫性障害のひきこもり青年に対する曝露反応妨害法：ストップ！イネイブリング	○ 仁藤 二郎 奥田 健次
P2-25	交通事故後、運転が困難となっていた女性への介入：行動記録から介入方針を変更し奏効した事例	○ 今野 高志
P2-26	名前を強迫的に思い出そうとするクライアントに対して曝露反応妨	○ 瀬口 篤史

害法を行った単一事例研究

P2-27 人を対象とした恐怖喚起・回避機能の転移と変換に関する実験のシ
ステマティック・レビュー

○ 柞木 太地
安 灿翎
櫻井 優大
胡 斯萌
松田 壮一郎

一般社団法人行動分析学会第42回年次大会

協賛企業ご芳名 (五十音順, 敬称略)

株式会社 学苑社

株式会社 北大路書房

株式会社 金剛出版

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8

☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393

https://www.kitahoji.com(価格税込)

ドムヤンの学習と行動の原理 [原著第7版]

M. ドムヤン著 漆原宏次, 坂野雄二監訳 B5上製・424頁・定価7920円 学習心理学の泰斗・ドムヤンによる米国で評判のテキスト, 待望の邦訳。行動の誘発, 強化, 制御, 消去, 変容に関わる学習の原理, およびその広範な活用について, 神経科学の裏づけを加えつつ新たな研究知見を紹介。

人はいかに学ぶのか

—授業を変える学習科学の新たな挑戦— 全米科学・工学・医学アカデミー編 秋田喜代美, 一柳智紀, 坂本篤史監訳 A5・396頁・定価4620円 [How People Learn (邦題: 授業を変える)] から20年の間で明らかになった知見に基づき再構成された最新版。脳科学・神経科学, 動機づけ研究や文化等多様な切り口から人の「学び」に迫る。

記憶現象の心理学

—日常の不思議な体験を探る— A. M. クリアリー, B. L. シュワルツ編 清水寛之他訳 A5・560頁・定価6380円 デジャブ現象や「喉まで出かかっているのに出てこない」状態等, 人間の記憶の不思議な現象に焦点を当て, 逆照射的に記憶のメカニズムに接近。これまでの研究知見に疑問を呈する。

未来思考の心理学

—予測・計画・達成する心のメカニズム— G. エッティンゲンほか編 後藤崇志, 日道俊之, 小宮あすか, 楠見 孝監訳 A5上製・720頁・定価11000円 目標実現のための心の仕組みを人に固有の「将来を模索し判断する力」を切り口に解説。認知, 社会, 教育, 健康等の分野にも展開。

時間概念と空間概念の発達

—古典的ピアジェ課題の新たな展開— 松田文字, 岡崎善弘, 日下部典子著 A5上製・116頁・定価5940円 時間と空間の概念形成は子どもから大人になる間にごのような発達の道筋を辿るか。ピアジェ課題に端を発する比較判断の課題を用いた実験からその様相を明らかにした, 一連の研究の集大成。

授業を変える

—認知心理学のさらなる挑戦— 米国学術研究推進会議編著 森 敏昭, 秋田喜代美監訳 A5・340頁・定価4180円 人はいかに学ぶのだろうか。この疑問にこたえようとする認知心理学の研究成果をもとに, すぐれた授業実践のあり方を問う。研究と実践の橋渡しを見事に成功させた「授業を変える学びの認知心理学」。

感情制御ハンドブック

—基礎から応用そして実践へ— 有光興記監修 飯田沙依亜, 榎原良太, 手塚洋介編著 A5上製・432頁・定価6160円 本邦で展開されてきた多彩な感情制御研究を一望できる書。基礎理論に始まり, 社会・人格・認知・発達・臨床・教育, さらに経済・司法・労働までの各分野における最新知見を8部31章21トピックで紹介。

犯罪行動の心理学 [原著第6版]

J. ボンタ, D. A. アンドリュース著 原田隆之訳 A5上製・544頁・定価7150円 膨大なデータに基づいた犯罪リスク要因を示し, 科学的知識をもとにしたアセスメントや治療サービスという実践に導く。人間の個性や多様性への畏敬の念と心理学の実践を結びつけ, その重要性を示す。世界中の犯罪・司法臨床現場に影響を与えた原著第6版。

シリーズ 臨床心理学

太田信夫監修/高橋美保, 下山晴彦編集 定価2200円

マインドフルネスストレス低減法

J. カバットジン著/春木 豊訳 定価2420円

ナラティブ・セラピーのダイアログ

国重浩一, 横山克貴編著 定価3960円

臨床心理師 心理学的支援法

杉原保史, 福島哲夫, 東 斉彰編著 定価2970円

レベルアップしたい実践者のための事例で学ぶ認知行動療法テクニックガイド

鈴木伸一, 神村栄一著 定価2530円

ナラティブ・メディスンの原理と実践

R. シャロン他著/斎藤清二他訳 定価6600円

心理学ベーシック なるほど! 心理学面接法

三浦麻子監修/米山直樹, 佐藤 寛編著 定価2640円

愛着関係とメンタライジングによるトラウマ治療

J. G. アレン著/上地雄一郎, 神谷真由美訳 定価4180円

グラフィック・メディスン・マニフェスト

MK. サーウィック他著/小森康永他訳 定価4400円



応用行動分析学 (ABA) テキストブック

基礎知識から保育・学校・福祉場面への応用まで

野呂文行【監修】
永富大輔・朝岡寛史【編著】
● B5判/定価 3960円 (税込)

授業や研修会のテキストとしても最適な応用行動分析学を学ぶための入門書。



ABA 早期療育プログラム DTT の理解と実践

一般社団法人東京 ABA 発達支援協会【監修】
橋川佳奈【編著】
● B5判/定価 2640円 (税込)

課題をスモールステップで取り組む DTT (ディスクリート・トリアル・トレーニング) を実践するための 1冊。



障害福祉入門

サービスの質を向上させるための理論と実践

大石幸二【編著】 野崎陽弘【著】
● A5判/定価 1980円 (税込)

対人援助サービスをより良いものにするための支援の考え方や技法をわかりやすく解説するテキスト。



通常学級における新たな学校改善術

特別支援教育からのアプローチ

大石幸二【編著】 花生典幸【著】
● A5判/定価 1980円 (税込)

学校改善を引き起こすための「理論」「教育実践の考え方」を示しながら、「具体的な技術」を提示する。

発達障害のある子のパーソナルデザイン

「ぼくにぴったり」のノウハウとコツを見つけて

添島康夫・霜田浩信【編著】
● B5判/定価 2420円 (税込)

この子にぴったりの活動・学び・やりがいを見つけるために。



発達障がいといじめ

発達の多様性に応える予防と介入

小倉正義【編著】 ● A5判/定価 2970円 (税込)

いじめへの「認識と実態」「予防」、そして「介入」までを解説し、発達障がいのある子どもたちをいじめから守る方法を探る。

いじめ防止の3R

すべての子どもへのいじめの予防と対処

ロリ・アーンズパーガー【著】
奥田健次【監訳】 冬崎友理【訳】
● A5判/定価 3300円 (税込)



大学における自殺予防対策

理解と実践的アプローチ

高橋あすみ【著】 ● A5判/定価 2970円 (税込)

学生の自殺の実態や大学を取り巻く状況を解説しながら、実施されている対策や今後の課題・展望を論じる。



感覚と運動の高次化理論に基づく教材の活用とかわりの視点 発達支援スタートブック

池畑美恵子【監修】 富澤佳代子【編著】
● B5判/定価 2530円 (税込)



非認知能力を育てる発達支援の進め方

「きんぎょモデル」を用いた実践の組み立て

関西発達臨床研究所【編】
高橋浩・山田史・天岸愛子・若江ひなた【著】
● A5判/定価 2090円 (税込)

学校や家庭でできる!

SST & 運動プログラム トレーニングブック

綿引清勝・島田博祐【編著】
● B5判/定価 2090円 (税込)



保育者ができる気になる行動を示す 幼児への支援

応用行動分析学に基づく実践ガイドブック

野呂文行・高橋雅江【監修】 永富大輔・原口英之【編著】
● B5判/定価 2090円 (税込)



幼稚園や学校で話せない子どものための場面緘黙支援入門

園山繁樹【著】 ● 四六判/定価 1760円 (税込)

知的障害のある人への心理支援

思春期・青年期におけるメンタルヘルス

下山真衣【編著】
● A5判/定価 2420円 (税込)



VB 指導法

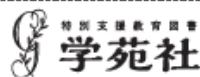
発達障がいのある子のための言語・コミュニケーション指導

メアリー・リンチ・バーベラ【著】 杉山尚子【監訳】 上村裕章【訳】
● A5判/定価 3740円 (税込)

特別支援学校 教育実習ガイドブック

インクルーシブ教育時代の教員養成を目指して

遠藤愛・宇田川和久・高橋幸子【編著】
● B5判/定価 2420円 (税込)

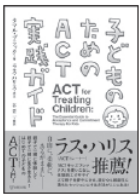


Tel 03-3263-3817
Fax 03-3263-2410

〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-10-2

E-mail: info@gakuensha.co.jp <https://www.gakuensha.co.jp/>

子どものための ACT 実践ガイド



タマル・ブラック 著/ラス・ハリス 序文
谷 晋二 監訳

体験的エクササイズと創造的セッションに親子で取り組む、はじめての子どものACT (アクセプタンス&コミットメント・セラピー) 入門。

A5判 並製 280頁 定価3,850円

新装版 ことばと行動

言語の基礎から臨床まで

一般社団法人 日本行動分析学会 編
浅野俊夫, 山本淳一 責任編集

行動分析学から言語を捉え、臨床に役立つ基礎・理論的研究から、ことばを育て、支援する具体的な技法までを豊富な事例とともに解説。

A5判 並製 400頁 定価4,620円



発達障害支援者のための標準テキスト

幼児期から成人のアセスメントと支援のポイント

辻井正次 監修
高柳伸哉 責任編集

保健・医療・福祉・教育等の全領域に対応！
この1冊で発達障害支援の全体像が把握できる支援者向けテキスト。

A5判 並製 324頁 定価3,850円



臨床行動療法テキスト

子どものための新世代の行動療法

園田順一 著

前田直樹, 境 泉洋 校訂

行動療法の歴史と理論背景、機能分析の方法と各技法を解説し、子どもの問題行動や疾患へのアプローチを事例とともに示す。

A5判 並製 178頁 定価3,300円



プロセス・ベースド・セラピーをまなぶ

「心の変化のプロセス」をターゲットとした統合的ビジョン

ステファン・G・ホフマン他 著
菅原大地, 榎原 潤, 伊藤正哉 監訳

ひとつの時代が、ここから始まる——
エビデンスとクライアントの個性、両方を尊重した心理療法の実現へ！

B5判 並製 276頁 定価3,960円



児童期・青年期のメンタルヘルスと心理社会的治療・支援

精神療法増刊第11号

本田秀夫+精神療法編集部 編

本特集は思春期・青年期のメンタルヘルスについて先端的に臨床実践されている先生方に心理社会的治療と支援についてご執筆いただく。

B5判 並製 272頁 定価3,300円



Ψ 金剛出版

〒112-0005 東京都文京区水道1-5-16
Tel .03-3815-6661 Fax.03-3818-6848

<https://www.kongoshuppan.co.jp/>
*価格は税込表示(10%)です。

一般社団法人行動分析学会第42回年次大会 準備委員会

委員長	久保 尚也
事務局長	腰冢 由子
委員	岩城 達也
	中澤 世都子
	石岡 綾香
	折原 友尊

大会事務委託 有限会社 リファレンス

一般社団法人 日本行動分析学会第42回年次大会発表論文集

発行者 日本行動分析学会第42回年次大会準備委員会

委員長 久保 尚也

〒154-8525

東京都世田谷区駒沢 1-23-1 駒澤大学文学部心理学科

メールアドレス : jaba-meeting@j-aba.jp

ホームページ : <http://www.j-aba.jp/meeting/2024/>